

外部団体と連携した防災教育プロジェクト

中学校の避難訓練 繰り返し行う避難訓練の大切さを学ぶ

予告しないでの実施や、集合場所の変更、水害を想定した訓練など、様々な形の避難訓練が行われるようになってきている。年度の最初に、避難訓練を行う大切さを学ぶ授業として実施。

■協力団体

災害救援ボランティア推進委員会、防災教育チャレンジプラン実行委員会

■内容

避難訓練実施後の、30分の内容として設定

- ・導入 授業の目的を説明し、被災地でのボランティア活動体験があるゲスト講師を紹介
- ・被害の実際を知る
 - 東日本大震災と阪神・淡路大震災の映像を見る。
 - 首都直下地震で想定される被害について伝える
- ・東日本大震災、阪神・淡路大震災でのボランティア体験談や、子供たちが書いた絵などで被害について具体的に想定できるようにする。
- ・ワークシート1を書く
- ・ワークシート2を書く
 - どのような内容を書いているか、確認し、発表する。
 - 実際に選んだものが、被災地でどのように使われていたか、ゲスト講師が伝える。
 - 発表を聞きながら、自分が書いていない物をワークシート3に書き加える。
- ・釜石東中学校の防災訓練についての映像を見る。
 - ゲスト講師から、体験談や、自らの身を守ることが第一であることを伝える。
- ・ワークシート4, 5を書く。



作成資料

指導案、ワークシート

支援団体情報（URL 等）

災害救援ボランティア推進委員会 <http://www.saigai.or.jp/>